

水害はどうして起きるのか

雨の降り方と想定される状況

大雨や洪水は、地震とは違い気象情報などに注意していれば、ある程度予測ができます。雨の様子や今後の気象情報などを確認し、災害に備えて早めの準備をしましょう。

1 雨の降り始め



雨が降り出すと、河川や排水路、雨水管に流れる雨水の量が徐々に増えていきます。雨水の量が増えても河川や道路側溝、雨水管がいっぱいにならないければ、皆さまの住宅などには影響はありません。

2 雨が強くなり、警戒が必要



雨が強く降り続けると、雨水管がいっぱいになって、道路側溝の雨水が雨水管に流れこむことができなくなり、道路上に雨水が溜まりはじめます。

河川の水位も上がり、警戒が必要になってきます。

3 ないすい 内水被害の発生



さらに雨が激しく降り続けると、マンホールや道路側溝などから水が溢れ出して、低い土地などで、浸水被害(内水被害)が発生します。また、河川の水位には、引き続き警戒が必要です。

立ち退き避難が必要な区域の方は、速やかに避難する必要があります。その他の方は、高い場所などの安全な場所に避難する必要があります。

4 洪水被害の発生



継続的に雨が激しく降り続けると、雨水管から溢れた水による浸水(内水被害)に加えて、河川から水が溢れたり、堤防が決壊するなどの大きな浸水被害(洪水被害)が発生します。

避難指示等の避難情報に応じて、速やかに安全な場所へ避難する必要があります。

1時間の雨量が

10 ~ 20 mm やや強い雨

ザーザーと降る



長引くようなら、注意が必要である。

20 ~ 30 mm 強い雨

どしゃ降り



側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。

30 ~ 50 mm 激しい雨

バケツをひっくり返したように降る



山崩れ・がけ崩れが起きやすくなる。避難の準備が必要。

50 ~ 80 mm 非常に激しい雨

滝のように降る(ゴゴゴと降り続く)



マンホールから水が噴出したり、土石流が起りやすくなる。

80 mm 猛烈な雨

息苦しくなるような圧迫感や恐怖を感じる



雨による大規模災害の恐れが高く、嚴重な警戒が必要。

資料：雨の強さと降り方(気象庁)を参考に作成